

大項目	中・小項目	新井戸尻考古館	前庭	フィールド
自然に親しむ: 四季の自然と向き合う場	◎自然環境・景観を愉しむ、観察する ・山の眺望、音を聞く ・天体: 冬至の朝日を見る窓、観月 ・動植物・虫の観察	・風景を眺める大きな開口部をロビーに設けることを検討。 ・冬至の朝日が館内ロビー等に入る計画を検討。		
	◎内省・癒やし ・静かな時間: 草の上でのんびり ・内省的な意識に向かえる外部空間	・過去と現在・未来を結び象徴としてのブリッジ	・のんびりできる場を検討。	・現在の遺跡公園内の草地で体験できる。
	◎周辺の自然環境と調和する ・自然と親和、土地を痛めない建物	・傾斜のある地形を生かし、自然と調和した配置・断面計画。		
体験する: 縄文人の「暮らし」や「ものづくり」を体験し「こころ」にふれる場	◎敷居を低くし、間口を広げる ・縄文人一日体験、キャンプ、縄文住居での宿泊 ・イベント: 映画、音楽、音響設備	・講座・会議室に映像・音響設備を検討。	・前庭を使ってイベントや体験ができるよう、スペースや設備等について検討	
	◎ものづくり・道具づくり ・土器・石器づくり: 縄文土器、石器づくり、使う体験、水場・炊事場 ・生活の道具づくり ・素材の採取: 粘土採取地の調査、現地での採取	・体験工房や軒下(半屋外)でものづくり活動ができるスペース、水場の検討。		・井戸尻史跡公園内で開催される「高原の縄文王国収穫祭」等において縄文の土器づくりの体験ができる。 ・縄文体験学習(春・夏)のイベントで、飾り玉づくり、丸木弓矢的あて、矢尻づくり等の体験ができる。
	◎縄文人の「食」と「火」、「世界観」の体験 ・縄文料理の美食: 石器・土器・火を使った調理と実食 ・縄文人になる: 火おこし、石磨き ・火の使用: 火が使える場所、かまど ・縄文人のこころ、死生観にふれる		・火を使った縄文の食を作る体験ができるスペース、水場の検討。	・井戸尻史跡公園内で開催される「高原の縄文王国収穫祭」において縄文の食の体験、土器づくり体験ができる。
	◎農耕・野外体験 ・農業体験: 縄文の食物を育てる、井戸尻にある素材を使った体験 ・石器を使った農業体験、収穫 ・発掘体験: 土器の発掘体験		・縄文の植物を育てる実験畑を検討。	
学ぶ: 縄文の学びを深め、探求する場	◎「本物」の展示体験 ・本物の展示体験: 風景も展示の一部 何度も来て見たい ・子供も分かる縄文人の生活コーナー、ジオラマなど常設体験コーナー ・土器・石器をできるだけ多く展示 ・本物の土器に触れる: さわれる・観察する土器・石器コーナー ・土器の学び: 土器の文様から読みとく	・風景を眺める大きな開口部をロビーに設けることを検討。 ・展示については、井戸尻考古館の収蔵品の特性を踏まえた展示方法を検討。		
	◎研究・バックヤードの公開 ・研究の姿を知る ・バックヤード作業、修復作業の公開 ・資料収集: この地域の資料を集める	・バックヤードの見学会等、管理運営面での対応を検討。		
	◎学びを深める ・専門的な学び: 現在の考古学における井戸尻遺跡の立ち位置の理解 ・講座・勉強会: 定期的な講習会、研究者の発表を聞く講座室 ・図書機能: 勉強する場、図書コーナー	・縄文の学びを深めるための各種講座、発表会等が開催できる講座室を計画。 ・おらあとう広場にライブラリーを設置。 ・講座・会議室を設置。		
交流する: 交流を生み出しコミュニティを育む場	◎憩い・集い・交流 ・多世代の人が気軽に立ち寄れる場(ロビー、ラウンジ、カフェ) ・集いの場、土間空間、縁側、広場	・館内に入ったところに多世代の人が出会い、交流できるロビー空間(おらあとう広場)を検討。	・ロビー空間及び軒下(半屋外の縁側)と一体的につながり、集いの場として機能する前庭空間を検討。	
	◎「おらあとうの精神」に触れる・発信する ・コミュニティ形成: 井戸尻文化発信のためのグループ形成、わが事として関わる意識 ・参加・共創: 建物建設への参加、定期的な施設維持活動、環境整備への参加 ・井戸尻にしかない魅力の発信: 先人の記録・魅力の発信、PR・イメージキャラクター(つっちーず)の発信	・建設プロセスにおいて、ワークショップ等を通じた参加やファンづくりにつながる機会創出を検討。		
環境整備: 建築環境とフィールドの整備	◎建築環境の整備 ・大屋根と半屋外: 大屋根の下で多様な活動、寒くない吹抜け・快適な内部空間、雨の日も活動できる広い軒下 ・特徴のある屋根: 屋根に上られる、屋根に土と草と木 ・自然との調和: 土地を痛めない建物、自然素材の使用 ・特別な体験を支える空間: 無影灯の照明、通路の工夫、人工物のない静かな場 ・土間空間: 体験工房スペース、気軽に立ち寄れるスペース	・大屋根が連続する広がりのある空間や軒下で多様な活動が育まれるよう使いやすい計画に配慮。 ・吹抜けに床暖房等の設備を設け、快適に過ごせるような計画を検討。 ・安全性の観点から屋根に上ることはできないが、縄文の考古館らしい特徴ある屋根のデザインを検討。 ・土、木等の自然素材の活用、落ち着いた空間の創出に配慮。 ・気軽に立ち寄れるロビー空間を検討。		
	◎水場、火が使える場 ・水場の設置 ・火が使える場所の確保 ・かまど: 縄文の暮らし体験	・体験工房に水場を設け、器づくり等のワークショップが行えるよう検討。	・外部で火が使える場の検討。	
	◎フィールドの整備 ・散策と動線: 起伏のある散策コース、駅からのワクワクする導線 ・インフラ整備: ライトアップ、多言語案内 ・交通アクセス: 貸し自転車、電動キックボードのParking、大きな駐車場	・展示や学びと史跡公園の体験が相互につながり循環するよう、新井戸尻考古館の2階レベルにブリッジを検討。 ・フィールドの説明や案内場を検討。		・フィールドの整備は将来計画の中で検討。